

平成16年度 病害虫発生予報 第1号

平成16年4月13日
発表：福島県病害虫防除所

病害虫の発生状況と発生予想（多 やや多 並 やや少・少 - 対象外）

作物名	病害虫名	発生状況 (平年比)				予想発生量 (平年比)				備考
		県北	県南	会津	浜	県北	県南	会津	浜	
水稲	イネいもち病 イネ苗立枯病 イネもみ枯細菌病、 苗立枯細菌病	-	-	-	-					
麦類	赤かび病	-	-	-	-					
リンゴ (ぶじ)	腐らん病 アブラムシ類			-			-		-	
ナシ	黒斑病 黒星病	-	-	-		-	-	-		二十世紀

予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は並発生要因であることを示す。

発生予報と防除対策

A 普通作物

イネいもち病（育苗期）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

例年同様、種子更新率が高く、消毒済の購入種子の利用が定着している（-）。
昨年の穂いもちの発生はやや多かった（+）。

2 防除上注意すべき事項

ワイン箱粒剤、デラウス粒剤は播種時から移植当日まで施用が可能であるが、害虫との同時防除剤は、施用時期が単剤と異なる場合があるので注意する。
被害稻わらやもみ殻などは伝染源となるので、育苗床への使用や、周辺への放置を避ける。
育苗温度管理および水管理はこまめに行い、過湿や過乾燥を避ける。

イネ苗立枯病 (リゾバス属菌, フジリウム属菌, ビシウム属菌, トリコテルム属菌)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

効果の高い薬剤による体系的な防除が普及・定着している（±）。

天候予報（4月9日発表1か月予報）によると、気温は平年並、日照は平年並か多いと予想されている（+）。

省力的な育苗技術の普及とともに、こまめな温度管理が十分に行われなくなってきた（+）。

2 防除上注意すべき事項

発生してからの防除は困難なので、病害虫防除情報ファクスサービス「ファピィ」情報番号20番を参照して予防対策に努める。

育苗期間中の極端な温度変化は発生を助長するので、緑化期以降は、昼間28以上、夜間10以下にならないよう気温の変動に応じて適切な温度管理を行う。

とくに出芽時の高温はリゾバス属菌等の発生を助長するので注意する。

無加温育苗等で、保温資材による被覆が長時間にわたると、高温・過湿になりやすく、発生を助長するので注意する。

水管理はこまめに行い、過湿や過乾燥を避ける。

イネもみ枯細菌病、 苗立枯細菌病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多			

- 1 予報の根拠
例年同様、種子の更新率が高い(±)。
天候予報によると、気温は平年並と予想されている(±)。
省力的な育苗技術の普及とともに、こまめな温度管理が十分に行われなくなっている(+)。
- 2 防除上注意すべき事項
種子消毒時にもみ枯細菌病の防除を実施する場合は、「ファピイ」(情報番号20番)を参照する。
緑化期以降の高温・過湿は、二次感染を助長するので避ける。
発病苗は移植せず、廃棄処分する。

ムギ類赤かび病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	並～やや早い			
	発 生 量	並			

- 1 予報の根拠
出穂期は平年並からやや早いと予想されている。
天候予報によると、降水量は平年並と予想されている(±)。
- 2 防除上注意すべき事項
感染時期は出穂期から開花盛期である。この時期に降雨があると発病が多くなるので、薬剤散布を実施する場合は、「ファピイ」(情報番号22番)を参照する。
平成15年産から赤かび粒の混入率が0.0%を超えた麦類については、食用としては規格外に格付けされるようになった。
刈り取り後は雨にあてないように注意する。
収穫に当たっては事前に赤かび病の発生状況を把握し、被害が認められる場合は健全な麦と仕分けして、収穫・乾燥をする。
共同乾燥施設においては、荷受け時にチェックを行う。赤かび病の被害粒が確認された場合は仕分けを行い、別に乾燥する。

B 果 樹

表1 生育概況(果樹試験場 4月12日現在)

樹 種	品 種	発 芽 期(月 . 日)		開花始期(月 . 日)		
		本 年	平 年	本 年	予測月日	平 年
リンゴ	つ が る	3.23	3.29	未	-	-
	ふ じ	3.25	3.30	未	4.23	4.28
モ モ	あ か つき	3.19	3.28	4. 9	-	4.17
	ゆ う ぞ ら	3.19	3.29	4.11	-	4.18
ナ シ	幸 水	3.29	4. 5	未	4.17	4.24
	豊 水	3.26	4. 2	未	-	-

注) 開花期予測法: 発育速度(D V R)モデルによる発育予測(起算日: 発芽日~)。

開花始期の予測値は、今後の気温が平年並に推移した場合。

- 1 果樹の生育状況
発芽期の平年比は、リンゴでは「つがる」が6日、「ふじ」が5日早い。モモでは「あかつき」が9日、「ゆうぞら」が10日早い。ナシでは「幸水」が7日、「豊水」が7日早い。
展葉日の平年比は、リンゴでは「つがる」が6日、「ふじ」が8日早い。
モモの開花始期の平年比は「あかつき」が8日早く、「ゆうぞら」が7日早い。

発生予報と防除対策

腐らん病（リンゴ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	多	-	

1 予報の根拠

県北、県南地方では枝腐らんが主であるが、一部では胴腐らんも目立ち始めた（+）。会津地方では胴腐らんが多く、菌密度は引き続き高い状況である（+）。

2 防除上注意すべき事項

薬剤だけでの防除は困難なので、耕種的防除と合わせ防除する。病斑の早期発見・早期治療によって菌密度を低下させる。

枝腐らんは見つけ次第早急にせん除、胴腐らんは病患部を削り取り、せん除及び削り取った罹病部は絶対に園地に放置しないで園外に持ち出し処理する。なお、切口や傷口には直ちに塗布剤を塗布する。また、泥巻き法等により治療する。詳しくは、うつくしま農林水産情報ネットホームページ（<http://www.aff.pref.fukushima.jp/>）を参照のこと。

近隣に放任園がある場合、伝染源となるので伐採する。

展葉初期の防除は黒星病の防除を兼ねた薬剤を散布する。「ふじ」では摘果が遅れると果梗が残りやすいので、果梗からの感染を防止するため、早期摘果に心がける（摘果剤の利用も有効である）。また、摘果後（6月5日頃）に薬剤を散布するが、薬剤の使用にあたっては、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照する。

ア布拉ムシ類（リンゴ） (短果枝上の越冬卵量)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	多		-	

1 予報の根拠

寄生ほ場割合は平年より多く、越冬卵量も多かった（+）。

2 防除上注意すべき事項

薬剤による防除は、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照する。

開花直前に発生が確認される場合硫酸ニコチンを使用するが、代替剤としてネオニコチノイド剤（モスピラン水溶剤かバリアード顆粒水和剤）を使用してもよい。

黒 斑 病 （ナ シ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		-	

1 予報の根拠

越冬病斑枝率は平年より低い（-）。

発生ほ場割合は平年並であるが、越冬病斑比率の高い園もある（+）。

2 防除上注意すべき事項

耕種的防除として、越冬伝染源である感染枝や罹病芽（ボケ芽等）の除去を行う。

黒 星 病 （ナ シ）	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	多	-	多

1 予報の根拠

昨年秋期の発病葉率は、県北地方でやや多～並、他の地方で高かった（+）。

2 防除上注意すべき事項

薬剤による防除では、開花直前と落花直後の散布が重要である。詳しくは平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照する。

開花期前後の防除間隔があかないようにするため、花弁が落下し始めれば散布すること（人工交配後2日あれば薬剤散布による結実への影響は小さい）。

その他病害虫の発生動向と防除対策

せん孔細菌病（モモ）

昨年夏期から秋期に発生が増加したため、越冬病原菌密度は高いと推定されるので、開花前後の薬剤散布を徹底する必要がある。使用薬剤は、平成15年版農作物病害虫防除基準（訂正版）を参照する。なお、落花直後はデランフロアブル 600倍またはパルノックスフロアブル 500倍またはダイボルトフロアブル 500倍のいずれかを使用する。

また、開花後の無機銅剤の散布は葉に薬害を生じるので注意する。

主要鱗翅目幼虫（リンゴ、モモ、ナシ）

主要な鱗翅目害虫の発生は、平年に比べ10日程度早いと推定される。ハマキムシ類やフユシャク類の防除には、訪花昆虫に影響の少ないIGR剤やBT剤を開花直前に散布する。モモハモグリガ、キンモンホソガ及びナシヒメシンクイの防除適期は、4月 6半旬～5月 2半旬と推定される。

ハダニ類（リンゴ）

会津地方のリンゴハダニの越冬量は、平年に比べやや少なかった。リンゴで発芽前にマシン油乳剤を散布できなかった場合は、発芽後1週間までにハーベストオイル100倍液を使用する。

ナミハダニの下草寄生量はやや多かった。樹冠下草にナミハダニの防除効果があるハービー液剤（除草剤）を5月上旬までに散布する。

なお、他地方の状況については3月5日発表のファピィ情報番号36番、または、うつくしま農林水産情報ネットを参照のこと。

天候予報

向こう1か月（平成16年4月9日仙台管区気象台発表）の平均気温、降水量は平年並、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い見込みです。

病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」

情報分類	情報発表日	情報番号	情報提供機関
総合案内	2004年4月13日	0-0404-03	福島県病害虫防除所
情報タイトル			枚数
病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」の総合案内		1	共通

情報の種類と情報番号

情報の種類	番号	発表日	情報の内容	枚数
総合案内	0	4月13日	情報の種類、内容、発表日を示す	1
発生予察情報			(本県で発表した最新の発生予察情報など)	
定期予報	10	4月13日	平成16年度発生予報第1号	4
定期予報	11	3月17日	平成15年度発生予報第16号	3
特殊報	16	10月15日	平成15年度発生予察特殊報1号	2
防除情報			(病害虫の具体的な発生データや防除対策など)	
水 稲	20	3月 8日	水稻の育苗期病害防除対策について	4
"	21	4月 9日	田植までの病害虫防除対策(育苗箱施薬剤)	2
麦 類	22	4月12日	麦類の赤かび病防除対策	1
果 樹	30	3月 5日	果樹病害虫総合(3/5発表の情報をまとめてあります)	5
"	33	3月 5日	ナシ黒斑病の越冬状況と防除対策	1
"	35	3月 5日	クサギカメムシの越冬状況	2
"	36	3月 5日	ハダニ類の越冬状況と防除対策	2
野 菜	43	2月24日	イチゴの病害虫の発生状況と防除対策	2
"	50	3月17日	冬春キュウリの病害虫の発生状況と防除対策	2
"	63	4月28日	キュウリホモブシス根腐病の発生状況と防除対策	1
その他の	66	11月28日	イチゴにおける天敵を利用したハダニ類防除	2
"	67	4月12日	牧草におけるムギダニの発生状況と防除対策	1
農 薬	71	3月18日	平成15年10月～平成16年2月に登録が失効した農薬	6
"	76	11月25日	農薬の容器又は包装の誤表示について(その2)	4
"	77	11月 6日	住宅地等における農薬使用について	2
"	78	6月 6日	展着剤の使用について	1
"	79	8月27日	農薬の容器又は包装の誤表示について	5
気象情報	90	金曜夕方	金曜発表の1ヶ月予報、金曜発表の週間予報	2

は最新の情報であることを、 はこれまでに発表した情報であることを示しています

FAX の操作方法

お手元のFAXから「024(923)2010」に電話する。

【ダイヤル回線の場合のみ】「トーン(*)」または「PB」ボタンを1回押す(入力信号をブッシュ信号に切り替える。ただし機種によって切り替えボタンが異なりますので、FAXの取り扱い説明書を参照ください)。

音声案内に従い^{注1)}、取り出したい情報番号^{注2)}に続けて、「シャープ(#)」を押す。

「ピー」の音がしてから、通信ボタン(「受信」や「スタート」ボタンなど)を押す。

受話器を置く。

注1) 音声案内中でも、情報番号の入力はできます。

注2) 情報番号がわからない場合でも、FAXの通信ボタンを押すだけで、総合案内の情報を取り出せます。

情報内容への質問や要望は病害虫防除所までご連絡ください。

TEL : 024-938-4242 FAX : 024-923-2012 e-mail : k fsm0301@sp.jppn.ne.jp

病害虫防除情報は、ファクスサービス(FAX: 024-923-2010)で取り出せます。また病害虫防除所ホームページ(アドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>)でも見ることが出来ます。